

答 船員の平均年齢は現在63歳となっており、今後の安定した運航を継続的に実施するためにも人材確保は喫緊の課題と認識している。船員としての資格を有する人材が減少傾向にあり、大変厳しい状況ではあるが、島民の生活の足としての航路を守るため、今後も継続的な運航に向け努力していきたい。

要望 大洲市の貴重な地域資源である青島については、観光振興や活用施策を模索し、島を訪れる目的を広げていく取組も必要であると考えている。島民のための航路という意義にとどまらず、市全体の財産としての価値を高める事業なども含め検討していただくことで、離島航路の継続にも寄与してもらいたい。

青島は瀬戸内海国立公園の一部として、豊かな自然環境や景観資源を有しており大きな可能性を秘めている。こうした視点での地域資源の活用策についても検討を進めてもらいたい。

厚生文教委員会

委員長 村上 常雄

◆大洲市肱南地域交流センター条例の制定について

説明 現在旧肱南公民館跡地に建設中の肱南地域交流センターの設置に関し、必要な事項を定めるため制定するもの。

本施設内に「肱南コミュニティセンター」と「大洲市地域交流拠点施設しろしたテラス」を設置し、各施設が相互連携し、地域住民をはじめ、カヌー利用者や観光客など、多世代の様々な利用者が気軽に集い、活動を通じて相互に交流し、にぎわいの創出を図ることとしている。本条例では、主に教育委員会が所管する「しろしたテラス」の管理に必要な事項を定めるものであり、オープンテラスやカヌー艇庫の利用料等を定めている。

問 本施設は、地域のにぎわい創出を目的とされているとのことであるが、教育委員会が所管することになった経緯を教えてください。

答 市内全域を流れる肱川を活用したカヌー体験を通じて、大洲の子供達の健全な育成や郷土への愛着・誇りを育むための施設であることから、教育委員会が所管することとなった。

問 市長部局の所管施設である肱南コミュニティセンターとは、どのように相互連携を図っていくのか。

答 オープンテラスの利活用方法など、施設管理について地域と十分に協議を行い、地域にとっても施設が有効活用されるよう検討していきたい。

問 施設の開館時間を教えてください。

答 開館時間は規則で定めることとしており、現時点では検討中であるが、お花見やゴールデンウィーク、うかい期間中など、季節に応じた利用時間を考えている。なお、オープンテラス部分は外付け階段により出入りが可能となる。

◆大洲市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について

説明 児童福祉法の一部改正により、乳児等通園支援事業、いわゆる「こども誰でも通園制度」が令和8年度より開始されることに伴い、本事業の実施に必要なとなる保育施設の設備や運営に関する市の認可基準について、国の定める基準と同一水準の基準を定めるもの。

本制度により、生後6ヶ月から満3歳未満の未就園児を持つ保護者は、就労状況にかかわらず、登録されている保育施設等を時間単位で利用することが可能となる。なお、大洲市では、来年4月に開園する八多喜町の認定こども園「なかよしこども園」での実施を予定している。

問 本事業の実施検討にあたり、ニーズの把握はどのように行ったのか。

答 今年3月の大洲市こども計画策定にあたり実施したアンケートの中で、保護者から一定のニーズが確認できた。

問 本制度を利用する通園は、ひと月あたり10時間が上限となっているが、この短時間で期待した効果は得られるのか。

答 令和7年度の補助事業では、月10時間が上限と決まっているが、来年度の上限は現時点で国から通知が来ていない。初めは親子通園から始めてもらうことや、経験豊富な保育士を専任で配置するといった運用を行い、効果を上げていきたい。

要望 今回の事業を含め、児童館での地域子育て支援事業や保育所等での一時預かり事業など、各家庭のニーズに合わせて適切な子育て支援制度が利用できるよう、各制度の広報、周知に努め、保護者に寄り添った対応をお願いしたい。